

# 核実験も探知可能。最新の地震観測システムに驚きの声

## 上越市議会が長野市で気象庁精密地震観測室と児童発達支援センターを視察

11日は長野市議会との交流会でした。毎年、恒例となっている会ですが、今年は長野市が会場でした。毎年、「講演会＋懇親会」または「視察＋懇親会」という形になりますが、今回は後者でした。

この日は旧松代町（現在は長野市松代町）にある気象庁精密地震観測室と今年7月にオープンしたばかりの児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」を視察してきました。どちらも長野市議会事務局の松坂次長がバスガイドと間違えるほどきれいな声で、しかもたっぷりと説明してくださいました。前職は観光課長だったとか。もちろん、現地では担当の人の専門的な説明もありました。

旧松代町はこれまでも2回ほど訪ねたことがあります。旧松代町が、地震観測室訪問は初めてです。同室の橋本徹夫さんがパワーポイントを使って、精密地震観測室の沿革や仕事の内容について説明してくださいました。同観測室では、世



界で発生する地震を観測できるだけでなく、核実験も探知できるそうです。説明の中で活断層の地震発生確率ランキングも明らかにされました。上越市に近い糸魚川―静岡構造線は30年以内に発生する確率が14%で第2位、高田平野東縁断層はほぼ0.8%で第9位でした。地震発生の仕組みや津波についてもわかりやすく説明してもらいました。

橋本さんからは同観測室のセンターや地下のトンネル内の地震観測機器（写真上）などを見せてもらいました。この日の長野市は30度を越える暑さでしたが、トンネル内は14度、ひんやりして快適な空間でした。夏でも冬でもこの気温は一定であり、それが観測機器のためにはいいのだそうです。年季の入った古い地震計も最新のコンピュータがずらりと並んだ観測センターも見えてびっくりでした。私たちの命と安全を守る観測の最前線でどういことが行われているかを知ることができました。

続いて訪問したのは、児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」です。社会福祉法人、長野市社会事業協会の理事長さんや事務局長さんなどが説明と施設の案内をしてくださりました。同センターは障害児相談支援事業、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業などを行っています。障害を早期に見つけ、ライフ・ステージに応じた支援していく、きめ細かな体制がとられているのには感心しました。同センターは1966㎡の建物で、総事業費は4億5600万円。同法人の事



【キバナアキギリ】漢字で「黄花秋桐」と書きます。シソ科の多年草。学名で「サルビア・ニッポニカ」と言われるように、日本のサルビアです。色が赤ければサルビアと区別がつかないかも。12日、高田の花ロードにて撮影。

### 小学生も大活躍…吉川区駅伝大会

第9回吉川区駅伝大会が13日にありました。19・2キロ、9区間のコース。旭ランナイズ、スキークラブなど常連組に加えて、シャイニング2001など小学生中心チームも参加し、全部で8チームが健脚を競いました。

選手の中には4日の上越地区小学校陸上選手権の400メートルリレーで新記録を達成した竹内綾祐、佐藤弘生、市村拓登、八木空来の4選手も参加していましたし、兄弟で大会を盛り上げた選手もいました。タスキをつないで、1時間14分58秒でゴールしたのは旭ランナイズでした。私は審判車に乗り、レースを見守りました。来年の大会は吉川町時代から通算で50回目の大会となります。





# 核実験も探知可能。最新の地震観測システムに驚きの声

## 上越市議会が長野市で気象庁精密地震観測室と児童発達支援センターを視察

11日は長野市議会との交流会でした。毎年、恒例となっている会ですが、今年は長野市が会場でした。毎年、「講演会＋懇親会」または「視察＋懇親会」という形になりますが、今回は後者でした。

この日は旧松代町（現在は長野市松代町）にある気象庁精密地震観測室と今年7月にオープンしたばかりの児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」を視察してきました。どちらも長野市議会事務局の松坂次長がバスガイドと間違えるほどきれいな声で、しかもたっぷりと説明してくださいました。前職は観光課長だったとか。もちろん、現地では担当の人の専門的な説明もありました。

旧松代町はこれまでも2回ほど訪ねたことがあります。旧松代町が、地震観測室訪問は初めてです。同室の橋本徹夫さんがパワーポイントを使って、精密地震観測室の沿革や仕事の内容について説明してくださいました。同観測室では、世



界で発生する地震を観測できるだけでなく、核実験も探知できるそうです。説明の中で活断層の地震発生確率ランキングも明らかにされました。上越市に近い糸魚川―静岡構造線は30年以内に発生する確率が14%で第2位、高田平野東縁断層はほぼ0.8%で第9位でした。地震発生の仕組みや津波についてもわかりやすく説明してもらいました。

橋本さんからは同観測室のセンターや地下のトンネル内の地震観測機器（写真上）などを見せてもらいました。この日の長野市は30度を越える暑さでしたが、トンネル内は14度、ひんやりして快適な空間でした。夏でも冬でもこの気温は一定であり、それが観測機器のためにはいいのだそうです。年季の入った古い地震計も最新のコンピュータがずらりと並んだ観測センターも見えてびっくりでした。私たちの命と安全を守る観測の最前線でどういことが行われているかを知ることができました。

続いて訪問したのは、児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」です。社会福祉法人、長野市社会事業協会の理事長さんや事務局長さんなどが説明と施設の案内をしてくださいました。同センターは障害児相談支援事業、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業などを行っています。障害を早期に見つけ、ライフ・ステージに応じた支援していく、きめ細かな体制がとられているのには感心しました。同センターは1966㎡の建物で、総事業費は4億5600万円。同法人の事



【キバナアキギリ】漢字で「黄花秋桐」と書きます。シソ科の多年草。学名で「サルビア・ニッポニカ」と言われるように、日本のサルビアです。色が赤ければサルビアと区別がつかないかも。12日、高田の花ロードにて撮影。

### カワニナは甘い野菜が好物とは

大島区仁上在住、南雲正夫さん発行の新聞、「宝多留の里便り」第45号が届きました。

このなかでホタルのエサとなるカワニナに餌をくれているという記事が載っています。「本来カワニナは藻や落ち葉を



夕顔の白もカワニナで真っ黒に

食べていますが、柔らかく甘い野菜」が大好きでありました。メロンやスイカは5分もたないうちに食べに来るそうです。写真はユウガオを食べているカワニナの群れです。おもしろいもんですね。初めて知りました。

# 春よ来い

## 第二七五回

### 稲刈りが終わって

ずいぶん寒くなりましたね。体育の日、約一カ月ぶりに柏崎の家を訪ねてきました。今回も妻と一緒にです。

柏崎の家では稲刈りがだいぶ前に終わって一段落しました。みんなが楽々しているものと思っていれば、驚きましたね。家の前には田んぼで、義兄が田んぼの高いところの土を低いところへと一輪車で運んでいたのです。年を重ねるに従って、いつも体を動かして働いていた亡き義父に似てきたなと思いました。

私たちの訪問に気づいた義兄は、田んぼから上がってきて、「ちよつと景色、変わったらい」と言います。言われるまでわからなかったのですが、作業所のそばにあった木が一本、切り倒されていたのです。木は両手をまわしてやっとなんか届くくらい太いものでした。木は先日の強風で道路側に倒れ、そのままにしておけないので、専門家に頼んで切ってもらったとのことでした。

義兄が倒れた木の説明を私たちにしはじめてまもなく、裏山からセミらしい鳴き声が聞こえてきました。ツクツク：ツクツク：。どうやらツクツクボウシらしい。わが家の周辺ではまったく聞こえなくなっていましたから、ここではまだセミの季節が完全には終わっていないのかとおしくなりました。

この日、柏崎の母の所へ土産として持参したのはジャンボスイカとクリです。ジャンボスイカはちょうど、尾神のNさんからもらったばかりだったので、半分は切り、片方を持って行きました。ジャンボだから大味かなと思ったなら、けっこういい味で、みんな喜んで食べてくれました。

クリを美味しく食べるようにするためには水に浸しておく、皮をむくなど手がかかりません。特に皮をむくのがたいへんなので、こういう細々したことをしなければならぬものを柏崎の母がどう思うかちよつと心配でした。「クリも持って来たんだけどもらってくれる？」と声をかけると、すぐに「もらう、もらう」という言葉が返ってきてホッとしました。

お茶をご馳走になりながら、しばらくおしゃべりを楽しみましたが、「私ね、細かいことが好きなんよ」と柏崎の母が言ったことで、しばらくの間、折り紙や草取りなどの話に集中しました。

柏崎の母の話でもおもしろかったのは草取りの話でした。「私はね、草取りなら暗くなってもあきないの……。ただね、椅子に座って仕事続けていると、簡単には立てないのよ。椅子といっても箱だし、ひじ掛けがついていないでしょ。それで、威勢をつけて『よいしょ』と立つんだ……」

家の周りの草を取る時に、木箱などを椅子代わりに使いつつ作業をすすめているところを見たことがあるだけに、はまり込んだ格好をして作業をする様子が目に浮かびました。柏崎の母は妻と同じく細々としたことは苦手だと勝手に思い込んでいたが、そうではなかったのです。

話が一区切りしたところで私は八石山（はちこくさん）へ向かいました。南条から登りはじめてすぐに見つけたのはサルビアと同じ形をした黄色の花です。これは、今春、大島区の従弟から教えてもらった「嫁泣かせ」という山菜の花でした。

この日は、柏崎の母のおもしろい話を聞いたことと、自然の中で咲いていた「嫁泣かせ」の花を見つけたことでとても気持ちのいい日になりました。

## 市内各地で敬老会楽しく開催

市内では9月から各地で敬老会が行われています。10日は吉川区の敬老会でした。会場のゆったりとした郷ゲートボール場には300人を超える人たちが参加しました。なかには、

なつかしい人たちに会いたくて、遠くの老人ホームから参加した人もいました。

式典では村山市長が「人が人に与える最高のものは心」「これからも地域の智恵者として若い人を育てていただきたい」と激励の挨拶。来賓祝辞では滝澤議長がお祝いの言葉をのべ、「7年後の東京オリンピックを見たい人は手を挙げてみてください」と問いかけると手を挙げた人は少なく、会場は笑いに包まれました。なかなかうまい挨拶でしたね。私はいつもの通り万歳三唱の担当です。前日のNHKテレビドラマ、「菜の花ラインに乗りかえて」とドングリのことを話して激励しました。

第2部のアトラクションでは鈴木美津男さんなどの歌謡ショー、吉川踊りの会の老川さん、竹内さん、八木さんの



踊り、明吟会吉川支部の詩吟、そして恒例となったゆったりとした郷の従業員による演劇を楽しみました。

この日の敬老会では素敵な出来事をいくつも目にしました。トイレに行きたいと腰を上げようとしている姉さんのそばに行き、妹さんが手を引っ張って助ける場面がありました。自分の席がわからなくなった人の手を取り、席まで案内する参加者もいました。金婚式を迎えた夫婦には閑ゆつたりの郷社長からプレゼント。社長のインタビューには笑っていましたね。「結婚してからケンカしたことがありますか」「ないです」「じゃ、ケンカしないで何をしていたんですか」ですって。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月9日(水)	10月16日(水)
上越南消防署	0.030	0.046
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.043	0.063
頸北消防署	0.050	0.056
頸南消防署	0.040	0.050
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.056	0.057
名立分遣所	0.047	0.050